



【2025年 ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ開催報告】

# 被爆地ヒロシマ・ナガサキに81名の組合員が訪問し、 平和な世界へ想いを馳せました

被爆・戦後80年を迎え、被爆者が高齢となるなかで、直接お話を聴くことが年々難しくなっています。悲惨な戦争を繰り返さないためにも、被爆の実相や体験を若い世代へ継承していくことがより大切になっています。

おかやまコープは「核兵器も戦争もない平和な世界」を求める被爆地の願いを広げ、平和について考える機会として、今年もヒロシマに76名、ナガサキに5名の組合員(家族)が訪れました。



## 8月4日(月)・5日(火)「ピースアクション in ヒロシマ」

日本生協連と広島県生協連の主催で、2日間で12の分科会が催され、おかやまコープからエリアの組合員3名が「被爆した子どもが書いた原爆詩の参加型朗読会」「被爆の証言」「虹のひろば」の分科会に参加しました。



参加型朗読会で  
原爆詩を朗読するようす

### 《参加者の感想》

- ・核兵器や戦争という暴力は受けて終わりではなく、何十年、何世代に渡って身体や精神に暴力を与え続けていると感じました。
- ・小山美砂さんの学習講演会で「黒い雨」について学び、内部被爆がいかに恐ろしいかを知ることができました。
- ・被爆者の方が「体験を話すことは当時に引き戻されるようで」と言われ、苦しい思いをしてでも、伝えてくれていることに感謝します。



参加者の  
谷山さん、佐々木さん、高田さん



## 8月4日(月)「子ども平和会議」

おかやまコープからエリアの組合員家族と子ども平和新聞プロジェクトの子ども記者の9名が参加しました。

子どもたちは、事前学習してきた自分の地域の戦争や戦跡などについてグループで交流し深め合い、平和について自分のこととして考える機会となりました。



参加した9組の親子と家族

### 《参加者の感想》

- ・その後、戦後80年のテレビを家族と見ながら話をしました。これからも知ったことを伝えていこうと思います。
- ・平和を考える時は「LOVE」が大切だとわかりました。  
L…Listen相手の話を聞く      O…Open Heart心開いて  
V…Voice声を出す                  E…Enjoy楽しんで♥
- ・「私+( )=平和」と聞かれ、みんなで話し合っていくうちに、「優しい気持ち」を持つという、特別なことじゃなくてもいいんだとわかりました。



子どもたちで考えを共有  
私+( )=平和

## 8月7日(木)・8日(金)「ピースアクション in ナガサキ」

日本生協連と長崎県生協連の主催で、2日間で12の分科会が催され、おかやまコープからエリアの組合員2名と組合員理事2名が「ミライの平和活動」「生協平和のまち歩き」「被爆の証言」「虹のひろば」の分科会に参加しました。

参加者は、分科会で学生など若い世代が交流証言者※やボランティアガイドとなり、被爆について語り継ぐ姿に触れ、長崎県での継承活動の広がりを実感しました。

※交流証言者とは

被爆体験を受け継いでいきたいという意思をもった方が、交流を深めた被爆者の体験や思いを語ります。

### 《参加者の感想》

- ・6歳で被爆した八木道子さんの幼少期に食べる物がなかったのが一番つらかったというお話を聴き、涙が止まりませんでした。
- ・八木さんの『(学校での平和学習のときに)「6年生は1年生にわかるような言葉で話してよ」とお願いします。黙っていても平和はトコトコと歩いて来ない。みんなで行動して、みんなで守る』という言葉が心に響きました。
- ・平和公園での案内が学生ガイドで行われ、次世代に平和活動が継承されていて素晴らしいと思いました。



学生ガイドと参加者



参加者が涙した八木道子さんのお話



高校生平和大使による活動紹介

## 8月4日(月)「子どもたち!バスに乗ってヒロシマへ行こう!!」

親子19組(大人20人 子ども21人)が参加して被爆地ヒロシマを訪れました。屋内で碑めぐりガイドさんによる被爆状況や公園内の碑などの説明後に、ガイドさんと実際の碑や広島平和記念資料館を見て回りました。

この日は、原爆の投下日を翌々日に控え、平和記念式典の準備がなされるなど独特の雰囲気の中、親子で被爆の実相と平和の尊さを学ぶ機会となりました。

### 《参加者の感想》

- ・せんそうのとき、げんぱくがおとされてなくなった人たちのぶんまで生きていきたいと思った。(小学3年生)
- ・もうせんそうをやめ、みんなでなかよくし、あらしいの、すばらしい地きゅうにかえたいです。(小学3年生)
- ・今日はいろいろなことが分かって、たくさんの方々の気持ち、思い出が知れて、今みたいに幸せに私がくらせているのはたくさん人たちの支えがあるからなんだと改めて知れました。(中学1年生)



会議室での学習のようす



公園内でのガイドさんのお話



参加者全員での記念撮影



## 被爆・戦後80年特別企画

## 「大人たちも、バスに乗ってヒロシマに行きませんか？」開催報告

～被爆地ヒロシマで知って、知らせ、考える そして次の一歩へ～

例年、夏に開催して大好評の子ども平和のバス企画。「大人向けも企画して！」の声にお応えして、被爆・戦後80年特別企画として11月24日に開催し、大人23組36名が被爆地ヒロシマを訪れました。参加者は、生協ひろしまのボランティアガイドさんの案内で公園内の碑めぐりを行い、おかやまコープも建設のために寄付をした「被爆者が描いた原爆の絵」11号碑や原爆ドームなどを約2時間回ったあと、広島平和記念資料館を約1時間見学し、被爆の実相を知り平和の尊さを実感する機会となりました。



全員で記念写真



原爆ドームを近くでみました



相生橋のそばにある11号碑



平和の鐘を鳴らす参加者たち



被爆ピアノのミニコンサート

## 参加者のコメント

- 今まで原爆の話題は避けてきましたが、おりづる平和新聞を読んで「大人としてこれではダメだ」と思い参加しました。
- 修学旅行の孫世代の子どもたちに交じって学習できたことで、戦争のない世界がどんなに素晴らしいことか実感でき、平和に感謝しました。
- ガイドさんと共に回る碑めぐりは、被爆者と広島市民が残したエピソードを聴くことにより、歩いただけでは知りえない当時のようすが伝わってきました。
- 同じ参加者の一人の方が「まず知ることが大切」と言われ、調べることを続けて行きたいです。1人での参加でしたが、生協組合員、平和学習という共通点で楽しく学べました。

持参した折り鶴を  
捧げる参加者